

今回は三次市内の道徳研究授業でした。三次市内の小・中学校の先生方もZOOMで参加されました。

教材名：「わが故郷に教育を」＝日彰館と奥愛次郎（自作資料） ～郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度～



奥愛次郎は子供のころから勉強が好きだったが体はあまり丈夫ではなかった。十五歳の時、吉舎にあった「日彰館」という漢学塾に学び、その後「広島英学校」、東京の「慶應義塾」で学んだが、二十歳の時、結核になり、学びたくても学べず吉舎町に戻ってきたのである。

そのころ広島の中学校（今の高等学校）は、広島市と福山市にしかなく、故郷吉舎にも「学びたくても学べない子供」がたくさんいた。貧しい家の子は働き手として、進学などはできない世の中であった。（田舎だから学べないのは、間違っている。美しい自然は私の疲れた心や体を癒し、心温かい人たちが助け合い生きている。吉舎のような田舎こそが勉強の環境にふさわしい。学校がなくて学べないのなら私が私立中学校を創ろう。勉強だけでなく道徳を学び、心豊かな生徒を育てる理想の学校を故郷に創るんだ。）と決心し、学校を建てるために「寄付」を集めに走り回った。・・・(略)・・・

開学しても、教員不足や、貧困と差別の問題が起きたが、奥愛次郎は「人の価値はお金ではない」と教え続け、私学日彰館は明治三十四年には百九十名の入学生を迎え、前向きに学ぶ生徒が集う学校として有名になった。さらに、卒業生が大学に進学できるように東京に寄宿舎を建て、ますます多額の費用が必要となった。

奥愛次郎は、結核治療の病院に通いながら、寄付金集めに「日彰館教育」の意義を説いて、三百人以上の政治家や芸術家の家を回り続けたが、門前払いされることもあった。

「手ぶらでやってきて私学の経営が厳しいから助けて。わしは見ず知らずの君に絵をくれてやる気はない。」「ののしり」を受けた日は足どりが重かったが、暑い日も寒い日も、寄付を頼みに歩いた。そのころの思いを書いた手紙が残っている。

「病弱の私ですが、東京という知らない土地で、一年中寄付金集めをしています。今日は七夕です。毎年、この時期になると故郷のことを思い出し涙が溢れます。自分の名誉のために日彰館のお世話をしているのではありません。『故郷の恩』に報いたいという一心で今日も歩くのです。』（奥田熟郎）宛 書簡 要約

生徒と一緒に寄付金集めに向かう途中、咳き込む私の手は吐血で紅く染まった。
「先生。もうやめてください。後は私たちが回りますから。休んでください。もう見ていただけません。」
「ありがとう。大切なのは『衆縁和合（しゅうえんわごう）』ですよ。助け合いが大切ですよ。教師も生徒もひとつの家族です。今の私にできることはこれしかないんです。私の命は尽きても、私の『志』はきっとつながっていくんですよ。君たち日彰館の卒業生たちの手で。」 奥愛次郎の思いは、こうして受け継がれた。

奥愛次郎達が寄付のために集めた書画は一万二千点を超える。これら作品は展示即売され、日彰館の運営資金となった。その作品の一部は、吉舎町内や日彰館高等学校に、今も残っている。

結核が悪化し、病の床にいた奥愛次郎は、うわ言のように「日彰館を。日彰館をもっと良くしなければなりません。」と繰り返した。こうして、奥愛次郎は故郷を思いながら、短い生涯を終えたのだった。

日彰館の創業者である奥愛次郎は毎朝、水をかぶり、お経をあげ、冬でも薄着のまま一度も生卵を口にしない、厳しい生活を送っていました。結核で三十九歳という若さで亡くなるまで、日彰館に学ぶ生徒を支え続けた奥愛次郎とはどんな人だったのでしょうか。

「生徒と一緒に寄付金集めに向かう途中、咳き込む私の手は吐血で紅く染まった。」
○奥愛次郎さんはなぜそこまで尽力したのか？
・ 貧しい人たちに教育を
・ 故郷に恩返し

奥愛次郎が最後まで「日彰館をもっとよくしなければいけません。」と言ったのはどんな思いからだろう。



- まだ満足できていない。⇒ 貧困、教育不足
- たくさんの県北の子ども ⇒ 吉舎の子ども
- ◎よりよい吉舎町の未来のために。
- ◎吉舎をよくすることにつながる。
- ☆恩返し、未来の子どもを育てる。

奥愛次郎の意思を継ぎ、吉舎町をよくするために吉舎に…

【留まる】

- ・ 吉舎を盛り上げる。
- ・ 働いて人を呼び寄せる。
- ・ 吉舎にいてどうしたらいいのかわかる。
- ・ 寄付や協力をする。

☆感謝
吉舎のおかげで育った。

☆吉舎のよき
次の世代につなげる。

☆過疎化を防ぐ

【留まらない】

- ・ 日彰館や吉舎の魅力を伝える。
- ・ 吉舎で学んだことや自然を忘れない。
- ・ 繋がりをきらなければ困っていることにも気づける。
- ・ 吉舎のためにできることを見つける。

故郷「吉舎」を大切にしたい思いは何でしょう。

- ◎昔の人の思いを未来につなげていくことがその地域を守ることに繋がる。
- ◎今もつながっているみたいに、これからの未来にもつないでいくことが大切だから、吉舎の伝統やいいところをつないでいきたい。

iPadを使いながら交流することができました！

